

御中

ライオン GRLC 普通タイプ施工要領書

内容	
1.使用材料	P2
2.標準施工フロー	P2
3.標準施工図	P3
4.施工要領	P3~6

1. 使用材料

1-1. 断面修復材

品名	荷姿	主成分
ライオンGRLC A材	25 kg/袋	特殊セメント、珪砂、ガラス繊維
ライオンGRLC C材	18 kg/缶	変性スチレンブタジエン共重合体

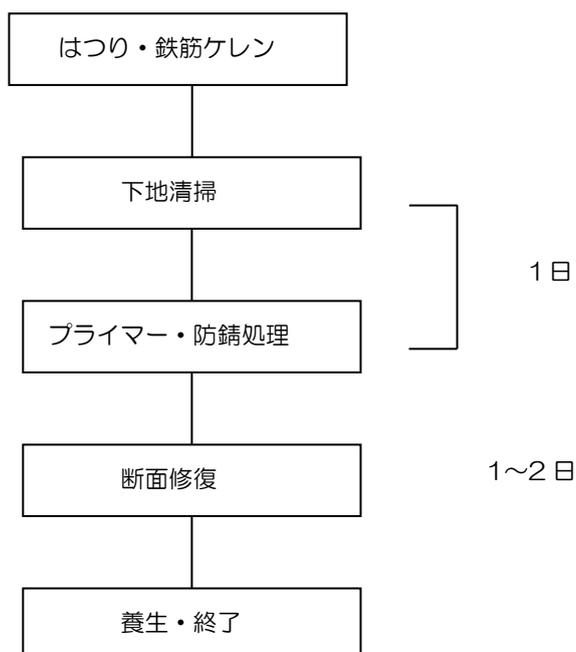
1-2. 防錆材・プライマー

防錆材につきましては当社製品「 α 防錆ペースト」をお勧めします。
亜硝酸塩とポリマーセメントペーストによる防錆効果が得られます。
本施工要領では「 α 防錆ペースト」を用いた場合の手順を示します。

品名	荷姿		主成分
α 防錆ペースト	19.1kg/ 缶	パウダー 4.5kg/袋×4袋	セメント、珪砂、再乳化形粉末樹脂
		リフレ α 1.1kg/瓶×1瓶	亜硝酸リチウム25%水溶液

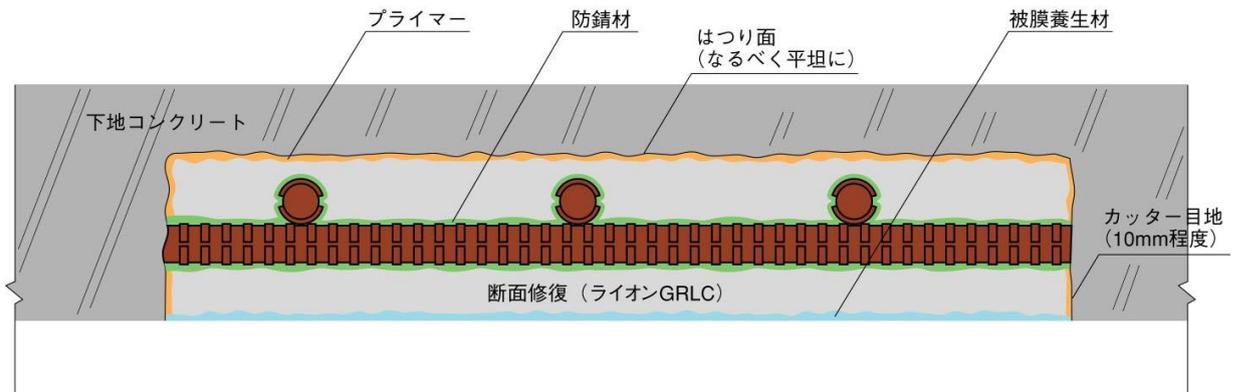
プライマーについては当社製品「リフレトリート」または「リフレタフボンド」をお勧めいたします。
下地の質的改善が得られ断面修復材と下地コンクリートを強く接着します。
詳細は「リフレトリート」および「リフレタフボンド」のカタログをご覧ください。

2. 標準施工フロー



3. 標準施工図

ライオンGRLC左官工法



4. 標準施工要領

4-1. はつり・鉄筋ケレン

4-1-1 カッターによる目地切り

はつり箇所決定後カッターを用い、矩形に目地切を行う。

4-1-2 はつり

電動ピック等で所定の深さまではつり、はつり完了後ケレンハンマー等で浮石、脆弱層がないか十分にチェックを行う。

4-1-3 鉄筋研磨

サンドブラスト、ワイヤーカップ等で鉄筋をケレンする。

4-2. 下地清掃

高圧洗浄機で下地の水洗いを行う。(水圧 50kgf/cm²程度)

プラストによって下地に付着した埃・錆・プラスト粉等を十分に落とす。洗浄が出来ない場合はコンプレッサーによる高圧エアブローで十分に下地及び鉄筋を清掃する。

下地洗浄後コンプレッサーによる高圧エアブローで鉄筋表面の水分をとばし、下地コンクリートが指触乾燥するまで養生を行う。

4-3. プライマー・防錆処理

4-3-1. プライマー処理

コンクリートのはつり面のプライマー処理を「リフレトリート」または「リフレタフボンド」で行ってください。

詳細は「リフレトリート」または「リフレタフボンド」のカタログをご覧ください。

4-3-2. 「 α 防錆ペースト」の混練

表 1 「防錆材配合表」に基づき「 α 防錆ペースト」を混練する。「リフレ α 」、水を事前に容器に入れ、ハンドミキサーで攪拌しながら「 α 防錆ペーストパウダー」を徐々に投入し、均一なスラリーになるよう 3 分間以上混練する。

表 1 「防錆材配合表」

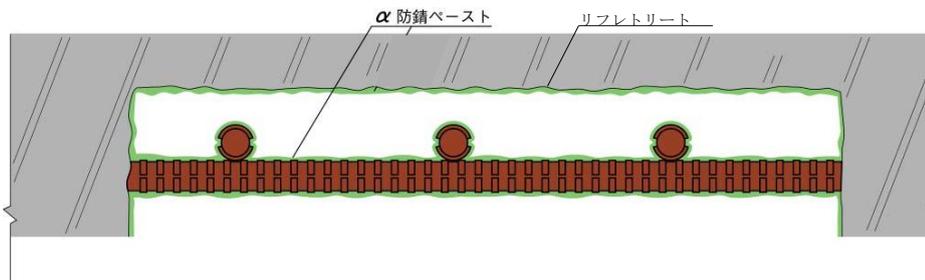
※施工面積	α 防錆ペースト パウダー	リフレ α	水
約 7 m ²	18kg (4 袋)	1.08kg (1 瓶)	3.2 ~ 3.6kg
約 3.5 m ²	9kg (2 袋)	0.54kg (1/2 瓶)	1.6 ~ 1.8kg

※施工面積計算根拠

- ・塗布厚み 1mm の場合「 α 防錆ペースト」の塗布量は、1.85 kg/m²。
- ・経験値よりはつり面積 1 m²当りの鉄筋表面積及び下地面積の合計を 1.7 m²とした。

4-3-3. 「 α 防錆ペースト」の塗布

リシンガン・刷毛を用い、鉄筋に厚さ約 1mm 以上を目安に「 α 防錆ペースト」を均一に塗布する。リシンガンで塗布する場合は鉄筋の裏側は刷毛・ローラーで塗布する。
(下地が乾きすぎた場合は再度水湿しを行い、指触乾燥を確認後 α 防錆ペーストを塗布する。)



4-3-4. 「 α 防錆ペースト」の養生

「 α 防錆ペースト」塗布後、雨・直射日光・強風等避け養生する。
指触乾燥を確認してから次の工程に移ってください。

4-4. 断面修復

4-4-1 断面修復材の混練

表 2 「断面修復材配合表」に基づき「ライオン GRLC」を混練する。混練時間は 3 分間以上とし十分に混練する。
また、可使用時間※を過ぎた材料の再混練及び断面修復は行わない。

※表 3 「断面修復材の可使用時間の目安」参照

表 2 「断面修復材配合表」

	ライオン GRLC A 材	ライオン GRLC C 材	水
示方配合 (m ³)	1,626kg	107 kg	150 kg
荷姿配合	1 袋 (25 kg)	1.65 kg	2.2~2.4 kg

表 3 「断面修復材の可使時間の目安」

冬期 外気温 5～15℃	標準 外気温 16～25℃	夏期 外気温 26℃以上
30～60 分	30～60 分	30 分
<ul style="list-style-type: none"> ・練り上がった材料にはシート等を掛け、水分の発散を防ぐ。 ・厳寒期（外気温 5～10℃）には混練水を温め、練り上がり温度を概ね 10～15℃ に調整する。 その際の可使時間は 60 分以内とする。 ・練り上がり温度が 30℃以上になる場合は、混練り水に冷水を用い、概ね 25℃程度まで下げる。 		

4-4-2 断面修復材の塗布



①主筋と下地の間に確実に充填するように 1 層目を塗布する。

②1 層目塗布後しまりを確認※してから配力筋との間に確実に充填するように 2 層目を塗布する。

③2 層目塗布後しまりを確認※してから、配力筋がかくれるように 3 層目を塗布する。

④3 層目のしまりを確認後、仕上げ塗りをを行う。



⑤仕上げ表面のしまりを確認後※、リフレトリートを 60g/m²を目安に仕上げ表面に噴霧し、鏝で押さえ込む

※断面修復材の打ち継ぎに際しては、表 4 「断面修復材の打ち継ぎ間隔の目安」を参考に打ち継ぎ間隔を決定する。

表 4 「断面修復材の打ち継ぎ間隔の目安」

冬期 外気温 5～15℃	標準 外気温 16～25℃	夏期 外気温 26℃以上
2～3 時間	1～2 時間	0.5～1 時間
<ul style="list-style-type: none"> ・打ち継ぎ面が乾燥し白くなった場合は、「リフレトリート」を 120 g/m²を目安に刷毛・カップガン等で下地に塗り付け、指触乾燥を確認後(約 0.5～1 時間)打ち継ぎを行う。 		

4-4-3 断面修復材の養生

- 断面修復材施工後はシート掛け等で直接風が当たらないように養生する。
- 冬期夜間などで外気温およびコンクリート躯体の温度が下がり、初期凍害を受ける可能性がある場合にはシート養生の他に加温養生など初期凍害を防ぐ対策を講じる。

4-4-4 施工完了